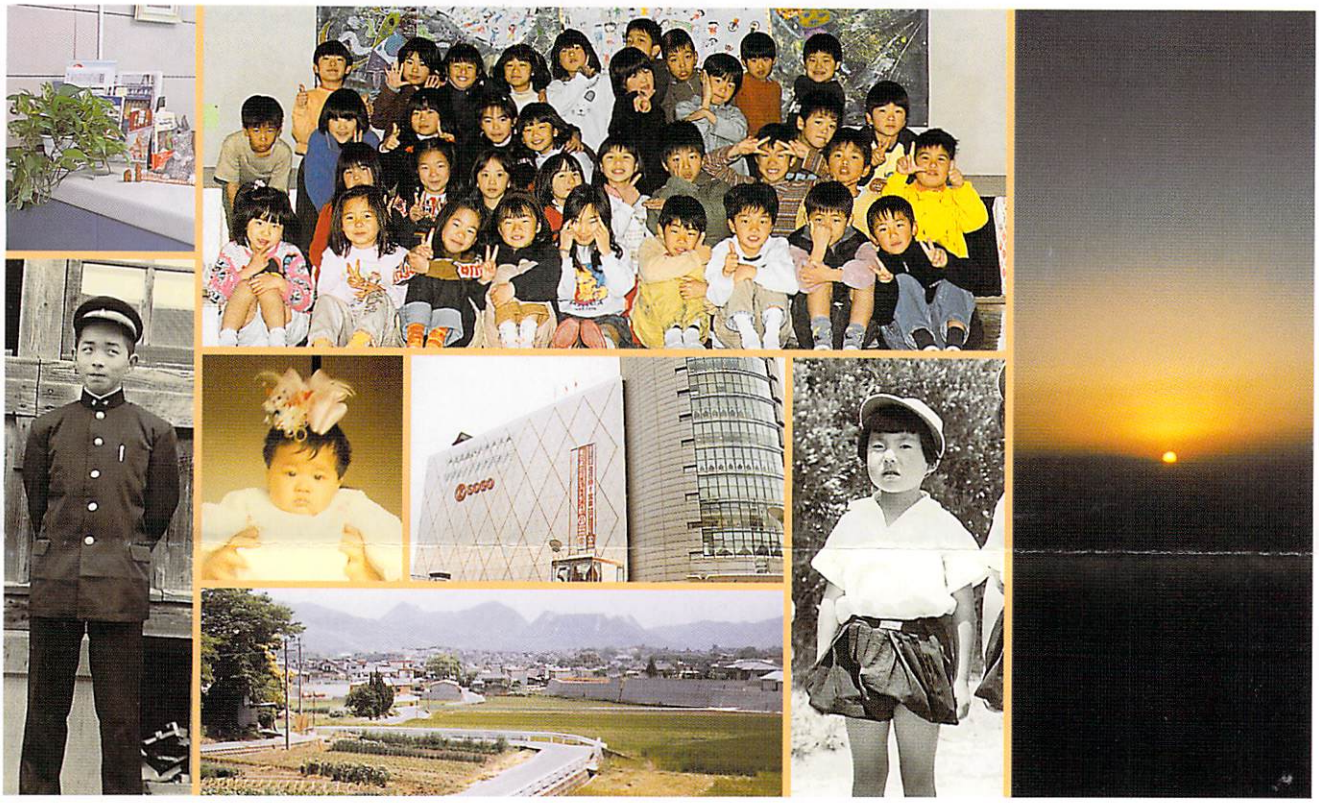


■みなさんといっしょに環境や社会の問題を考え、紙面を作っていきます。

東風

No.2
●発行日
2001年1月1日
●発行所
小倉東総合法律事務所
●編集者
荒　牧　啓　一
●連絡先
〒802-0062 北九州市小倉北区
片野新町2丁目12番21号
朝日センタービル2階
TEL093(932)5575
FAX093(932)5600
e-maii:ponpoko@lime.ocn.ne.jp

新年明けまして おめでとうございます

2001年、新しい世紀21世紀を無事に迎えられたことを共に喜びたいと思います。21世紀が希望に満ちた時代となることを心から望むものです。

20世紀は激動の100年であった。

2つの世界大戦をはじめとする数多くの戦争、内乱、科学技術の驚異的な発展、それに伴う人口増大、食料危機、環境破壊等々。

それでも僕ら（私は今年50歳）は、将来に夢を持つことが出来たし、挫折を繰り返しながらもこれまで生きてきた。

21世紀の子ども達は大きな夢をもつことができるだろうか。

景気は緩やかに回復しているとはいえ、政治の混乱で明るさはもう一つであり、リストラも依然続いている。親の収入も伸び悩み少子化で人口は減少するが、他方、高齢化で税金などの負担も増えている。

世界的には人口は爆発的に増加し、環境も悪化、食糧危機、エネルギー危機も心配である。

これでは子ども達に大きな夢を持てというほうが酷かもしれない。

新しい世紀、新しい時代を迎えるにあたって子ども達が夢を持てる社会にするために何ができるか。

ひとりの小さな努力の積み重ねが、大きな変革をもたらすことに確信をもちたい。21世紀は行動する時代にしなければならない。

All for one, one for All
の精神でがんばりたい。

21世紀 子どもたちの「食」は大丈夫？

問題が多い子ども達の食生活

世界では食糧危機が叫ばれ、飢えた子ども達の姿が伝えられる毎日ですが、一方日本では、飽食の時代、食品の氾濫の時代で、日本中総グルメになった感があります。しかし、子ども達の中には、噛めない子、肥満の子、食品の味、香り、名前のわからない子、食物アレルギーに悩む子、ひとり食べの子など問題が山積みされています。

21世紀は、子ども達に大地や海の新鮮な食品の香りや味のわかる感性を高め、将来、成人病などに怯えることのない食習慣を養い、地球上の全ての人々の幸福に眼を向ける優しい心と行動をはぐくんでもらいたいものです。

ところで、「給食」という言葉からみなさんはどんな連想をしますか。

まずい?嫌いなものが多い?私なんかは脱脂粉乳を鼻をつまんで飲んだ世代で、中学生になるとお弁当をもって行けるので嬉しかった記憶があります。でも、教師をしていた母は忙しく、何種類かのメニューを繰り返し弁当に入れるので（定番は鶏肉と卵の炒め物でした）すぐ飽きてしまったものです。そんな私が3年前から「北九州市で中学校給食を実現させる会」の会長をしています。

そうなんですね、全国の中学校の70％で"教育の一環"として行われている給食が、ここ北九州市の中学校では行われていないのです。

個性の時代にみんな同じ物を食べさせるのは時代遅れだとか、母親の作った弁当を持たせることで親子の絆が深まるとか、特定の食物アレルギーを持った子に対して配慮してもらえないとか、給食のシステムを作るにはお金がかかるとか、色々と批判・反論はあるようです。

しかし、現実の中学生の昼食は、忙しくて冷凍食品に頼ったお弁当、またコンビニ弁当をそのまま持ってくる子も多いと聞きます。それでもお弁当を持たせてもらえる子は幸せで、中には毎日、お金だけを渡され、そのお金を「かつあげ」され、日なが空腹に耐える…といった悲惨な報告も聞かれます。

子どもの食生活をまもることは、親の愛情であり、義務でなのでしょうが、こうした"現実"を垣間見るにつけ、どの子にも、安全で栄養あるおいしい給食を…と望まずにいられません。

地元の旬の素材で安全、おいしい給食を

旬の野菜はおいしいだけでなく、栄養も豊富です。旬の野菜は他の時期よりもビタミン類が多く含まれていることは科学的にも立証されています。北九州は合馬のタケノコだけでなく、ほうれん草、たまねぎ等豊富な野菜の産地です。どの地方でもその地方で生産される野菜・米、近海でとれる魚があります。旬のものを旬に食べる。それにはその地方で作られたものを食べるのが、新鮮で安く食べるコツです。

学校給食で地元の野菜や米を使えば、農家の人も助かるはずです。子ども達が地元で作られた野菜や米の味と香りが分かるようになれば親たちも感化され、地域の活性化にもつながるはずです。

新鮮な食物の香りと味がわかる子どもが増えれば、日本の農業、漁業も少しは復興するでしょう。

地元の食材を使って、自分の学校で作られた安全な給食を、家庭と同じような陶器の食器で、暖かいものは暖かいうちに食べる…。こうした取り組みが既に他県では始まっています。

21世紀、北九州の子ども達にも、こうした豊かな昼食を制度としてプレゼントしたいと考えています。

information 新鮮情報

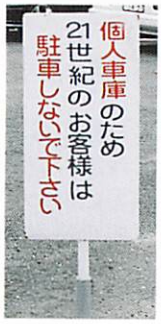
【事務所周辺ナビ】

〔看板1〕

21世紀のお客様？？

通勤途中にみえるこの看板。

このあたりはドラえもんでも住んでいるのか？？



〔看板2〕

「ぬか酵素浴場」

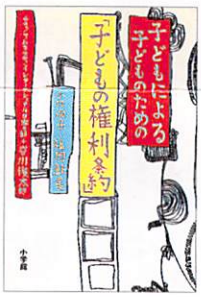
…って　いったい…

事務所周辺の電柱に見かけるこの看板。“ぬか”に“浴”ということなので、イメージ的には指宿の砂風呂のように、あたたかい糠の中に横たわり、上から糠をかぶせられ…という感じでしょうか。

興味津々!!糠は昔から「米糠石鹸」など美肌の味方。21世紀、ちょっと糠酵素浴とやらで女に磨きをかけてみましょうか？

【書　籍】

・『子どもによる子どものための「子どもの権利条約」』



小口尚子・福岡鮎美著

協力　アムスティ・インターナショナル日本支部、谷川俊太郎

「『子どもの権利条約』をもっと普通の生活で使う、ピーンとくるような言葉で表現してくれる人はいませんか?」という呼びかけに、当時14歳だったふたりが応募。みずみずしい感性と遊び心でこの作品が最優秀賞に輝きました。たとえば第3条。「児童に関するすべての措置をとるにあたっては云々」で始まるこの条文も「子どもにいちばんの幸せを、ね。」といった具合。谷川俊太郎氏との座談会も収録。事務所で貸出します!ぜひ、ご一読を。

・『超 インフルエンザ —ミクロの脅威がしのびよる—』

船瀬俊介著

健康は自己防衛の時代です！　季節柄、くれぐれもご用心あれ。

みなさんの暮らしの知恵やお勧め情報などを教えてください。

ゆったり安心の日々のために

—原発大事故で日本は終り立て「先憂後楽」の士たち—

環境問題評論家
船　瀬　　俊　介

後楽園球場の名前は中国故事「先憂後楽」に由来する。すなわち「先に憂いて後に楽しむ」。為政者の心得を説いた戒めである。だれしも、ゆったりのんびり生きたい。しかし政事(まつりごと)を司る者は「庶民に先んじて、世を憂えよ」と教えているのだ。

ところが、昨今の政治を見るにつけ、まったくアベコベであることが嘆かわしい。「先楽後憂」の政治家(もとい政治屋)がなんと多いことか…!

去年、私も共著でかかわった『買ってはいけない』という小冊子が約200万部ものベストセラーとなった。これも、国民大衆が最近のCMの垂れ流し商品に、疑問、不安を抱いていることの証しであろう。この国民の不安にまったく政界、財界は応えていない。

私は、約30年来、市民運動に関わってきた。そこで痛感したのは、日本の経済界のトップたちが国民の環境や健康などに全く無頓着である…ということだ。環境と健康危機は、あらゆるところに蔓延噴出している。なのに政治屋、企業家はまるで頓着しない。それどころか危機の存在すら知らない。

たとえば、私は戦後最大の欠陥商品は「原発」だと確信する。最大の「買ってはいけない」「造ってはいけない」“商品”なのだ。それを自民党政府の主導のもとに日本列島に52基も造ってしまった。

一方海外を見よ。スウェーデン政府は原発廃止の方針を打ち出した。彼らは「スウェーデンでは千年に一度、マグニチュード4·8を超える地震が起こる確率がある。これは原発の建設、運転には耐え難いリスクである」という。

世界有数の地震列島ニッポンでは毎年これくらいの地震は頻発している。ウクライナ科学アカデミーも「チェルノブイリ原発事故は直下型地震で引き起こされた」と衝撃の報告書を発表。原発内部には広島型原爆の数千発分の“死の灰”が詰まっている。地震でコントロールを失って核分裂が暴走すれば“原発”変じて“原爆”となる。京大のシュミレーションによれば首都圏の原発が大事故を起こすと、想定死者数は約800万人という。そして直下大地震の脅威は日に日に着実に迫っている。

まさに恐怖のロシアンルーレット…。一基の原発の大事故で日本列島は居住不能の“死の列島”となる。日本人は世界に流浪する祖国なき民となるであろう。

日本は自然エネルギー大陸という。太陽エネルギー、風力、地熱、波力発電などへのシフトが急務だ。多くの「先憂後楽」の士よ、いまこそ立て!—とエールを送りたい。

●船瀬氏紹介

『買ってはいけない』(週刊金曜日別冊ブックレット)は200万部をこえる超ベストセラーに。

福岡県田川郡の秘境に生まれ、荒牧弁護士と高校、大学の同級生。日本消費者連盟スタッフを経て独立。

近著に『買ってもいい　食卓編』(光文社)等、著書多数。